



CITIZEN

CITIZEN REPORT
2019

CITIZEN

【企業理念】

「市民に愛され市民に貢献する」

「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じて
世界の人々の暮らしに広く貢献していきます。

【私たちの戦略】

グループ中期経営ビジョン 2021

“Innovation for the next”

～時を感じ、未来に感動を～

【私たちの強み】

“Manufacture”

他の追随を決して許さない
唯一無二を生み出す
卓越した技術と技能

シチズングループ・コーポレートストーリー

シチズングループは、国産時計をつくりたいという想いから1918年に創業し、今年で101年を迎えました。私たちは、部品から完成時計まで自社一貫製造するマニュファクチュールとして成長し、時計事業とその部品をつくる工作機械事業を軸に、世界の人々の暮らしに広く貢献しています。シチズンという社名には、「市民に愛され市民に貢献する」という想いが込められています。そんな私たちだからこそ、時代（とき）の変化を敏感に捉え、持続可能な未来に感動をつくる使命があると考えています。これからも私たちは、従来のものづくりにとどまることなく、新たな価値創造に挑戦し続けていきます。

CONTENTS

- 02 社長メッセージ
- 06 サステナブル経営
- 10 シチズングループの事業展開
- 12 成長戦略

- 16 ポートフォリオ別概況
- 16 時計事業
- 22 工作機械事業
- 26 デバイス事業
- 27 電子機器事業／その他の事業

- 28 コーポレート・ガバナンス
- 31 役員一覧
- 32 グローバルネットワーク

編集方針

当社は、シチズングループの中長期的な企業価値をお伝えするため、「CITIZEN REPORT」を発行しました。本レポートは、当社グループの企業姿勢や事業の方向性について、ステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えすることを目的に編集しています。

見直しに関する注意事項

本レポートに記載されている当社グループの将来の業績に関する見直しなどは、現時点で知りうる情報をもとに判断し作成したものです。この将来予測についての記述は、為替変動、製品に対する需要変動、およびその他のリスクや不確定要素を含みます。したがって、今後、当社の業績が本レポートに記載されている見直しと異なる可能性があることをご承知おきください。



CITIZEN

「市民に愛され市民に貢献する」
企業理念を再認識し、
新たな価値を創出します。

シチズン時計株式会社 代表取締役社長

佐藤 敏彦

創業から101年を迎えた今、シチズングループはさらなる成長を実現するため、新中期経営計画を策定するとともに、次の100年を視野に長期的な展望を見据えています。私たちは変わり続ける環境や社会状況に対応し、新たな価値創造に挑戦していきます。

事業活動を通して企業理念を実践

シチズンの原点と向き合いながら、成長軌道を描く

2019年4月、私はシチズングループの社長に就任しました。創業から101年目というタイミングでの就任に、シチズングループの着実な成長を実現するという固い決意を持つとともに、世界という舞台で次の100年も活躍し続ける企業へと導くべく、強い覚悟で挑んでいく所存です。

創業当時から「国産の時計をつくる」という目標を高く掲げ、ものづくりに邁進してきた100年に及ぶ経験と実績は私たちの誇りであり、また自信でもあります。それゆえにこの誇りと自信を持って、私たち一人ひとりが原点と向き合い、将来の姿を思い描かねばなりません。私たちの原点とは、「市民に愛され市民に貢献する」というシチズングループの企業理念です。原点と向き合うということは、企業理念を理念として受け止めるだけでなく、私たちがその意味を捉え直すことでもあります。「市民」とは誰を指しているのか、何が「愛され」、どのような「貢献」が求められているのか。これらについて、「市民」に由来する「シチズン」という名を冠する当社においては一層鋭敏であるべきと考えています。なぜなら、シチズングループが提供する製品は、一つとして市民と関わりのないものなどないからです。例えば、工作機械事業やデバイス事業などの企業向けの製品も、それらが別の製品に組み込まれ、あるいは別の製品を加工・製造することもあるでしょう。それは目に見えないところでの出来事かもしれません。しかし、私たちが製品に込めた想いは消えることなく、お客さまのもとに届いていると信じています。だからこそ、シチズングループの製品が市民の日々の暮らしを支えているということについて、私たちは自覚しなければならないのです。

また、シチズングループが、「市民に愛され市民に貢献する」ものづくりの実現を目指すうえで、地球環境や社会課題などについて、自身の問題として向き合うことが今後の成長には不可欠です。今回、新中期経営計画におけるグループ経営ビジョン実現に向けた重点施策の一つとして、サステナブル経営の推進（持続可能な開発目標（SDGs）への取り組み）を掲げています。事業活動やそのプロセスにおいてサステナブルな社会の実現に貢献していくことで、シチズングループとして社会的責任を果たすと同時に、急速に変化する社会的な潮流を捉えた価値の創出にもつながります。それがシチズングループ全社員の誇りや自信を確かなものにしていくと考えています。

「中期経営計画 2021」 Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～

時代の変化を捉えられる人材育成を強化

シチズングループでは、2019年度に「Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～」というビジョンを掲げ、新中期経営計画をスタートさせました。私たちはこれまで時代を牽引する技術開発を続け、電波時計や防水性能など、多くの世界初の製品を世に送り出してきました。私たちのイノベティブな技術や製品に対する熱意は、非常に際立っていると自負しています。その熱意は時計事業だけでなく、グループ各社においても技術的なチャレンジが積極的に行われるなど、全社に伝播しています。社内での開発も着実に進めており、シチズングループの基盤となる生産技術、技術開発、基礎開発については今後も革新を継続していきます。

一方、世界市場に目を向けると、競争から協業へとといった変化が起きています。シチズングループでも、異業種とのコラボレーションなどオープンイノベーションに積極的に取り組む考えです。例えば、パートナー企業との協業による技術交流をはじめ、大学や研究機関への開発者派遣など、さまざまな展開を検討しています。これらの試みは、幅広い視野と新しい市場を俯瞰できる開発者の育成にもつながると期待しています。変化する時代に追随するのではなく、今何が起きていて、この先何が起きるのかを先読みするうえでも、パートナー企業との協業を積極的に展開していきます。

また、消費行動が「モノ」から「コト」へと移行している現代では、技術主導型の開発姿勢ではなく、人や社会に立脚したものづくりが求められています。人は技術そのものを必要としているのではなく、製品を通じて得られる価値に期待しているのです。だからこそ、開発者は近視眼的に技術を目的化することなく、感動体験をお客さまに届ける、その先にある目的に挑むことで新たな顧客価値を創出し、技術革新を実現できると考えています。

「Innovation for the next」の“next”は、時代の流れや変化を意味しています。私たちに今必要なことは、時代の行き先を見据えて私たちの道はここにある、という“next”を見極めることです。オープンイノベーションや社外との交流を通して新しい技術・考え方と出合うことで、視線の置き方や目線の向け方も変えられるようになります。そのような経験を通して、物事を見極める力を養ってほしいと考えています。社外でのさまざまな経験は、社内では気づけなかった、市場を見る目や価値観の変化といった感覚的なことも獲得できる機会となるでしょう。その一つが2018年に創業100周年を記念して開始した「シチズン社会貢献活動派遣制度」です。本制度は国内外の各地に赴き、その地域における社会課題と向き合い、現地で活動を行うというものです。そうした経験を積むことで意識も変わっていき、さらには参加した社員が発信者となることで、シチズングループも内部から変わることができると期待しています。これは意識改革とも言え、対話することで、今まで暗黙知に過ぎなかった情報が他者と共有できる知識として獲得できるようになります。互いに理解するという、コミュニケーションの豊かな環境をシチズングループの中でしっかりと築いていきます。

市場を創造し、ビジネスとして成立させるには、従来の考え方を変え、新たな価値観をいかにして身につけていくかが課題であり、その鍵となるのがダイバーシティです。多様な価値観を持つ人々が相互に理解・協力することで、競争力のある高付加価値製品を生み出せるようになると考えており、取り組みを強化しています。特に、女性の活躍推進に向けて、シチズングループでも積極的に推し進めていく計画です。



2019年度のシチズングループの取り組み

コミュニケーションの強化によって、デジタルイノベーションを推進

私たちは、シチズングループがさらなる成長を果たしていくために、全社一丸となって「デジタルイノベーション」を進めており、今までにない新たな価値の創出に向けて、コミュニケーションの強化に注力しています。

戦略推進には組織全体の活性化が欠かせません。私自身も社員とのコミュニケーションの活性化に努めており、社長就任後も従来どおり積極的に現場に出ています。現場にトップが立つことにより、ボトムアップとトップダウンが同時進行できる効率的なコミュニケーションが期待できるからです。また、イノベーションには物事をゴール起点で考えることが重要です。私はこれまでの経験から、問題を一つずつ解決していくのではなく、ゴールを定め、そこへ向かう意識を持つことが肝要だと確信しています。加えて、全体を俯瞰する視点を現場が持つことで、最終的な目標を踏まえた最適で最短の手順を組み立てることが可能となり、よりスピード感のある展開を実現できます。そこでも、コミュニケーションは重要な鍵となります。現場と経営側とのコミュニケーションの在り方についても部門や役職の垣根を越えて活性化するべく実践していきます。

コミュニケーションの強化によって、「デジタルイノベーション」では、デジタル技術の活用による製造革新と業務改革に取り組みます。製造革新では、製造工程の自動化を推進し、人的リソースを付加価値を生む業務に集中させることで、人にしかできない匠の技術のさらなる高度化を図ります。業務改革では、経営の意思決定の迅速化・高度化と、グループ人材の高付加価値業務への最適配置により、間接業務の効率化を進めていきます。

シチズングループの社員一人ひとりが「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を体現していくことで、一体感が醸成されブランド力を高めることにもつながります。さらに、「時を感じ、未来に感動を」もたらすために、私たちシチズングループはスピード感を持って時流を先取りし、自ら進化しながら変革を遂げていきます。

代表取締役社長

佐藤敏彦

シチズングループコミットメント

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を原点に1世紀にわたり事業を展開してきました。これからも社会とともに持続的に発展していくために、グループの事業を通じて国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成を含む社会課題の解決に寄与することでさらに事業拡大を図り、次の100年も継続できる企業を目指します。取り組む社会課題については、企業理念、行動憲章、サステナブル戦略、シチズン環境ビジョン2050、各事業領域との関連性を鑑みて特定し、課題解決に向けたアクションにつなげるとともに、進捗については外部へ積極的に公開していきます。



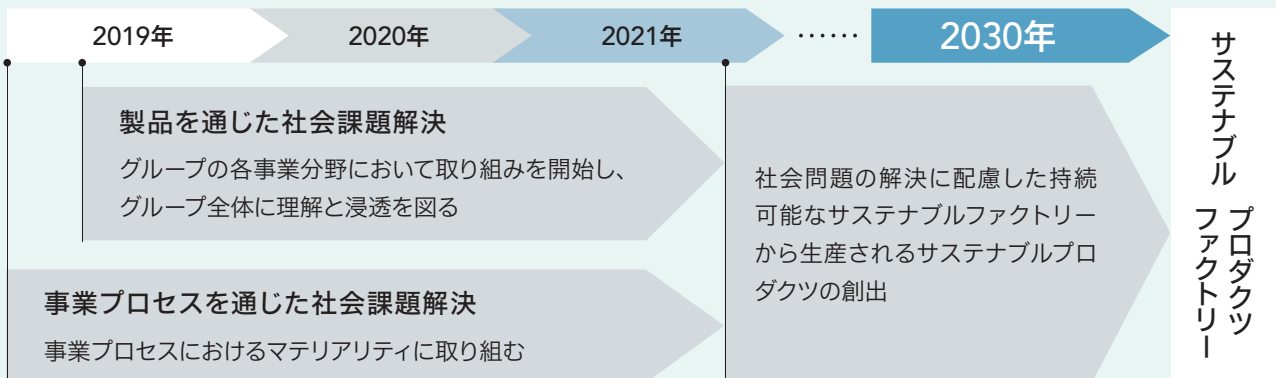
シチズングループのサステナブル経営

シチズングループが世界中の人たちから必要とされ、「愛される企業」となるには、シチズングループが生み出す製品やサービスのみならず、その背景にある企業姿勢も含めて社会から受け入れられる必要があります。すなわち、単に良い製品・サービスを提供するだけでなく、人権や地球環境などの社会課題にも配慮した経営を通じ、ステークホルダーからの信頼を獲得し、企業価値の向上や事業拡大を図ること、それがシチズングループの考える「サステナブル経営」です。私たちは世界中の人たち（市民=CITIZEN）に寄り添い、「愛される企業」になるために、2019年度からの新中期経営計画において、この「サステナブル経営」を推進していきます。

サステナブル戦略の概要

シチズングループのサステナブル戦略は、①製品を通じた社会課題解決と②事業プロセスを通じた社会課題解決（マテリアリティへの取り組み）の2本柱で推進しています。

- ① 製品を通じた社会課題解決では、2030年までにグループの各事業分野において「サステナブルプロダクト」を創出し、人権・環境・労働環境・コンプライアンス・事業継続計画（BCP）・生産性向上などに総合的に配慮した持続可能な「サステナブルファクトリー」を実現していきます。
- ② 事業プロセスを通じた社会課題解決では、グローバルな社会環境の動向を踏まえ、2019年度に策定した新中期経営計画から従来のマテリアリティを6つに集約しました。サプライチェーンを含めた事業活動全体での取り組みを通じて、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献していきます。



シチズングループのマテリアリティについて

シチズングループは、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を原点に、国際社会の一員かつ真のグローバル企業としての責任を果たし、持続的に成長していくにあたって、優先的に取り組むべきマテリアリティを特定しました。

さらに、取り組みをより実効性のあるものとするために、「サステナブル委員会」を設置しました。この委員会はシチズング

ループ全体のSDGsへの取り組みに関する重要事項についての意思決定を行います。委員会の事務局となるシチズン時計の経営企画部門およびCSR部門は、シチズングループのSDGsへの取り組みを推進する役割を持ち、委員会の運営のほか、進捗管理や社外への情報開示なども行っていきます。

シチズングループ・マテリアリティ

	マテリアリティ	貢献を目指すSDGs
コーポレート・ガバナンスの強化	経営の透明性と健全性の確保のための内部統制システムの整備や、グループ全体での効率的な業務執行、および適正な監督を通じてシチズングループの継続的な企業価値向上を目指します。	 
品質への取り組み	信頼性および安全性の維持・向上を企業理念「市民に愛され市民に貢献する」の中核と位置づけ、ものづくりの全プロセスにおいて、実効性のある品質保証体系の維持・改善に取り組めます。	  
人権の尊重と労働慣行	グローバルにビジネスを展開する企業として、バリューチェーン全体にわたって、人権を尊重する責任を果たすよう努めます。また、多様性を認め合い、互いの能力を高め合う企業風土を強化し、誰もが安心・安全に働ける職場づくりを実践します。	   
責任ある調達	シチズングループ全体で調達活動の最適化を目指すとともに、バリューチェーン全体で、社会課題の解決を目指します。	     
環境イノベーションの促進	シチズングループの製品や、バリューチェーン全体の事業プロセスにおいて、環境に配慮した事業活動を行うことで、新たな価値の創出に努めます。	    
社会貢献活動の促進	シチズングループの従業員は、国内外の各地域における社会課題と向き合い、「学習・教育」「環境」「スポーツ」「災害支援活動」の分野を中心に、社会貢献活動に取り組むことで、地域社会との共生を目指します。	     

SDGs達成に向けて整備した方針など

● シチズングループ人権方針

シチズングループは、「国連グローバル・コンパクト」への参加を2005年4月に表明し、そこに掲げられた10原則についてグループを挙げて実践しています。具体的な取り組みとして、バリューチェーン全体にわたって、すべての人の人権を尊重する責任を果たすよう努めています。

● シチズングループ紛争鉱物対応方針

シチズングループでは、サプライヤーと連携して、武装勢力による児童労働や強制労働などの人権侵害を伴う資金調達に加盟しないよう、武装勢力が採掘・仲介した「紛争鉱物」を使用しない方針です。

● 現代奴隷および人身売買に関する声明

シチズングループは、人権の尊重を明確にするため、2018年度に「シチズングループ人権方針」を策定し、2015年に成立した英国現代奴隷法に沿った声明を発表しています。自社事業およびサプライチェーンを通して人権侵害に加盟することなく、現代奴隷および人身売買撤廃のための取り組みなどを含むサプライチェーン上のリスク排除に努めています。

● シチズングループ社会貢献方針

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に掲げ、良き企業市民として地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指しています。また、従業員が社会課題と向き合う機会を提供し、自発的に参加できるよう、それらの活動を支援しています。

2018年度のマテリアリティ・トピックス

品質コンプライアンスの強化

グループガバナンスの強化

事業目標の達成と持続的な発展を確実なものにするためには、グループ全体のリスクを集約・管理し、迅速な対応体制の構築が不可欠だと考え、「グループリスクマネジメント委員会」を設置しました。同委員会では、グループガバナンスおよび品質コンプライアンスの強化に

向けた取り組みの進捗確認と、グループ共通の重点リスクへの対策状況の確認、新たなリスクへの対応を行っています。この体制により、グループ各社でノウハウの共有とグループ全体で均一なリスクマネジメントを図ります。



シチズンファインデバイスにおける品質コンプライアンスの研究の様子



品質への取り組み

2018年度に「グループ品質コンプライアンス委員会」を新設しました。統一指針となる「シチズングループ品質行動憲章」の策定をはじめ、品質に関わるリスク低減に向けた体制の構築を推進するほか、今後はさらに品質に関する監査機能も強化し、定期的なモニタリングや監

査を実施していく計画です。さらに、品質部門の独自性を担保するために組織変更も行いました。なお、2018年度の主な取り組みとして、品質部門のワーキングチームを結成し、品質管理面からのコンプライアンスについて討議を重ねています。

シチズン環境ビジョン2050の策定

環境イノベーションの推進

シチズングループは、「シチズングループ環境中期計画2024」でサステナブル経営の実践を掲げ、グループ全体で環境や人権、コンプライアンス、BCPを包含したサステナブルファクトリーによる持続可能なものづくりを自社だけでなく、サプライチェーンを通じて行うことを約束しています。さらに、2019年4月には、より長期的な環境面の取り組みの方向性を明確にした「長期環境目標2030」と「環境ビジョン2050」を策定しました。「長期

環境目標2030」では、SDGs達成への貢献を視野に入れて5つの目標達成を目指すほか、「環境ビジョン2050」では脱炭素、資源循環、安心・安全で心豊かな社会の実現に貢献します。シチズングループは、これらの長期的ビジョンを掲げ、サステナブル経営の実践による「市民に貢献する」サステナブルプロダクツの創出を目指して進化し続けていきます。

シチズン社会貢献活動派遣制度

社会貢献活動の推進

シチズングループは、良き企業市民として地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指しています。創業100周年を迎えた2018年には、さらなる進化と発展に向けた新たな取り組みとして「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。この制度は、シチズングループの従業員が国内外に赴き、それぞれの地域における社会課題と向き合った支援活動を行うものです。また、同制度を通じ

て、参加した従業員が日常や業務から離れて視野を広げ、新たな価値観を得ることで、市民や社会に愛される製品・サービスを生み出すアイデアやエネルギーをシチズングループのものづくりの現場に持ち帰ることを目的としています。2018年度には、東日本大震災で被災した宮城県や当社の拠点があるタイを含め、全7地域で活動を実施し、グループ全体で延べ210名が参加しました。



当社の拠点の一つフィリピンで、非行や虐待などの理由から家庭で暮らすことが困難な子どもたちに対し、時計工作教室「CITIZEN First Watch（自分でつくるはじめての時計）Project」を実施。ものづくりの達成感と新しいことを学ぶ喜びを知る機会を提供



東日本大震災の津波によって深刻な被害を受けた宮城県石巻市雄勝町において、地域振興と地域コミュニティづくりを目指し活動している「雄勝ローズファクトリーガーデン」で支援活動を行う



カンボジアでのマングローブ植樹活動を通じ、生物多様性の保全に貢献

サプライチェーンの人権を含む人権方針の策定

人権の尊重と労働慣行

「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じ、シチズングループはバリューチェーン全体にわたって、すべての人の尊厳と権利を尊重します。国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」などの人権に関する国際規範を支持・尊重するとともに、

事業活動を行うそれぞれの国や地域で適用される法令を遵守します。また、国際的に認められた人権と各国や地域の法令の間に矛盾がある場合は、国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求していきます。

責任ある調達への推進

シチズングループでは、グループ統一の「CSR調達ガイドライン」に則り、製造プロセスにおける企業責任の認識に基づいた調達活動における取引先との連携強化に努めています。また、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのGCNJサプライチェーン分科会に参

加しており、同分科会が発行したサプライチェーンマネジメントやCSR調達に関する専門書の制作に協力してきました。2019年度は、CSR調達の取り組みをさらに発展させるため、各事業統括会社においてサプライヤーアンケートの実施を計画しています。

シチズングループの事業展開

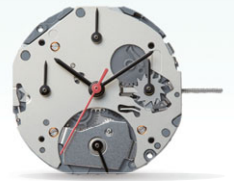
● 1918 創業

「国産の時計をつくりたい」

1918年、輸入が主流だった時計の国産化に向け、シチズン時計の前身・尚工舎時計研究所を創立。独自設計により完成した懐中時計は、当時の東京市長・後藤新平氏によって“永く広く市民に愛されるように”と「CITIZEN」と名づけられ、現在の社名の由来になりました。



The CITIZEN「Caliber 0100」
搭載モデル（時計）



マルチファンクションムーブメント
（ムーブメント）



1924
社名の由来となる
懐中時計第1号完成
「CITIZEN」

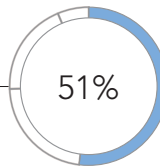
時計技術資産の蓄積

- 1956年 パラショック
国産初の耐震装置「パラショック」を搭載したウオッチ
- 1959年 パラウォーター
国産初の完全防水ウオッチ
- 1971年 ハイソニック
国産初の音叉式電子ウオッチ
- 1973年 シチズンクォーツ
シチズン初のクォーツ式ウオッチ
- 1976年 クリストロン ソーラーセル
世界初のアナログ式太陽電池ウオッチ
- 1993年 電波時計
世界初の多局受信（日本、ドイツ、イギリス）型電波時計
- 2003年 アテッサ エコ・ドライブ電波時計
世界初のフルメタルケース薄型エコ・ドライブ電波時計
- 2011年 エコ・ドライブ サテライト・ウェーブ
世界初の「サテライトシステム」搭載アナログ式エコ・ドライブ衛星電波時計
- 2016年 エコ・ドライブ ワン
世界最薄*（2.98mm）のアナログ式光発電時計
- 2018年 Caliber 0100発表
年差±1秒の世界最高精度*光発電エコ・ドライブ ムーブメント

【基幹技術】
小型化
精密加工
低消費電力

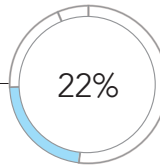
事業の特徴

時計事業



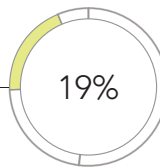
人の心に感動を与える美しいデザインを最新のテクノロジーが完成させる「技術と美の融合」をコンセプトに、世界中の「市民（シチズン）」により良い時計を提供しています。世界でも数少ない、部品から完成品まで自社で一貫製造するマニュファクチュールです。

工作機械事業



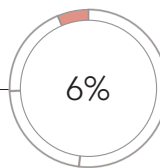
小さく高い精度を要求される時計部品製造で培った技術やノウハウを活用し、1936年より工作機械の生産を開始。医療や自動車、半導体、ITなど幅広い分野で必要不可欠な部品を生み出す工作機械は、今日の技術の進歩や社会の発展を支えています。

デバイス事業



身近な電子機器などに組み込まれる部品であるデバイスの製造には、時計事業で培った基幹技術「小型化」「精密加工」「低消費電力」の技術を活かしています。製品の低消費電力化と長寿命化を可能にし、人々の生活をより便利で快適にするだけでなく、地球環境への負担軽減にも貢献しています。

電子機器事業



時計事業で培った精密加工・組立技術を応用してつくられたPOS・バーコードプリンターと高精細デジタルフォトプリンターは、各種店舗や工場など、社会のさまざまな場面で活躍しています。また、電子体温計や電子血圧計は、人々の健康管理をサポートし、健やかな暮らしづくりに貢献しています。

その他の事業

宝飾品、レジャーサービス など

*アナログ式光発電腕時計として。2019年6月当社調べ



Cincom
(工作機械)



照明用LED
(オプトデバイス)



自動車部品
(精密加工部品)



サーマルプリンター
(電子機器)

主な製品

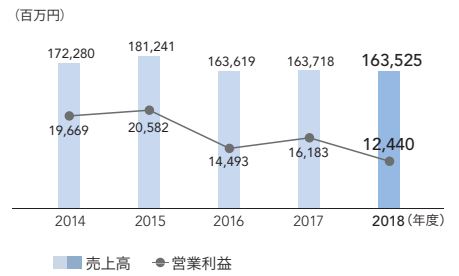
主な顧客群

売上高／営業利益

- > 米国市場中価格帯トップシェア
- > ムーブメント販売世界トップクラス

- 腕時計
- ムーブメント
- 設備時計

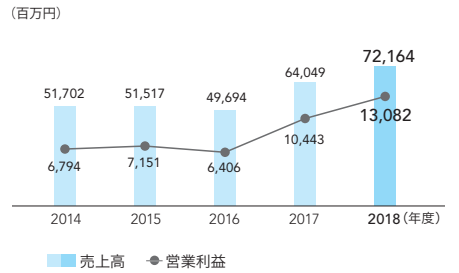
- 一般消費者
- 販売店
- 代理店 など



- > 中・小型CNC自動旋盤世界シェアトップクラス

- 主軸台移動形CNC自動旋盤「Cincom」
- 主軸台固定形CNC自動旋盤「Miyano」
- マルチステーションマシニングセル「MC20」
- IoTを活用したソリューションサービス「alkappliesolution」

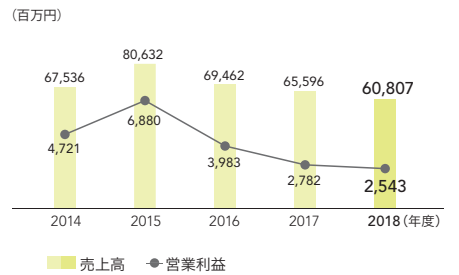
- 自動車メーカー
- 半導体メーカー
- 医療機器メーカー など



- > 小型チップLED世界トップクラス

- 自動車部品
- 小型スイッチ
- チップLED
- 照明用LED
- 水晶デバイス
- 強誘電性液晶ディスプレイ

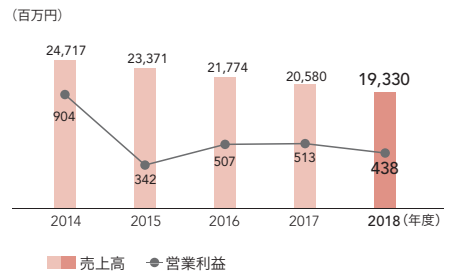
- 自動車メーカー
- 照明メーカー
- 家電メーカー など



- > 小型精密技術の応用展開

- デジタルフォトプリンター
- サーマルプリンター
- 電卓
- 電子体温計
- 電子血圧計

- 小売業者
- 卸売業者
- 家電量販店 など





資本効率の向上に注力し、
時計・工作機械事業の
成長を加速させていきます。

取締役 古川 敏之

「シチズングローバルプラン2018」の成果と課題

「世界で勝ち抜く真のグローバル企業」を目指した 構造改革の推進

シチズングループは、「世界で勝ち抜く真のグローバル企業」を目指し、2013年度より6ヵ年の中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」を推進してきました。前期3年間は、筋肉質な経営体質の構築を図るため、徹底した構造改革と体質強化を実行しました。具体的には、時計事業を中心に、需要の変化に柔軟に対応できるよう、国内外の生産体制の再編や拡充などを行ったほか、不採算事業からの撤退やデバイス事業会社の合併など、選択と集中を推し進めました。

後期3年間は、より厳しさを増すグローバル競争に打ち勝つため、収益性向上を目的とした製造力の強化に一層注力するとともに、積極的に成長投資を行い業績拡大に努めましたが、2018年度の目標指標については、主に時計事業を

取り巻く環境変化の影響を受けたこともあり、残念ながら未達となりました。

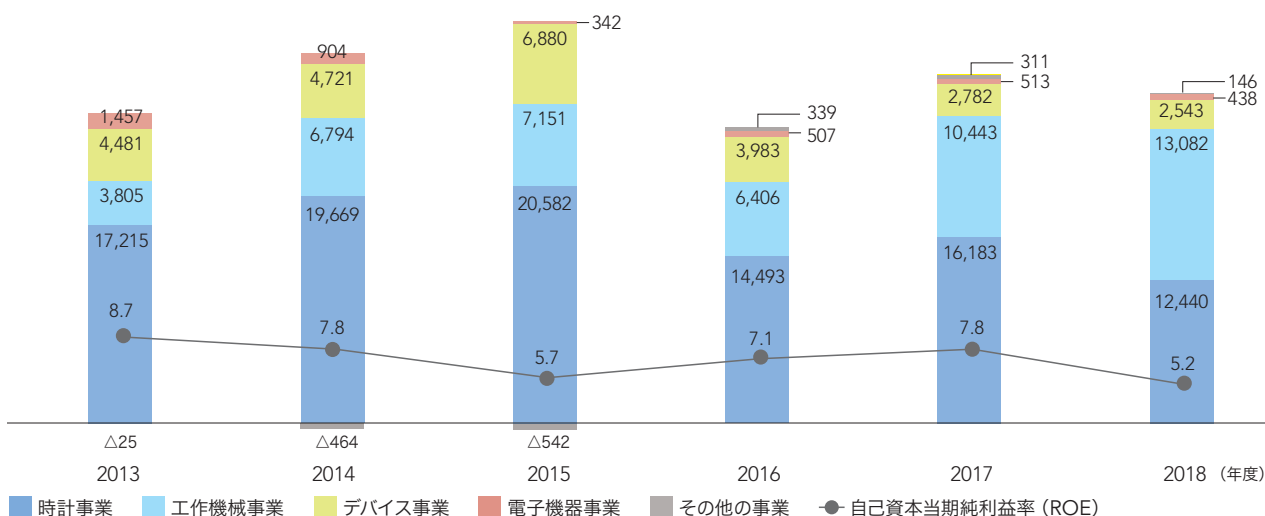
一方、成長戦略を実現するための事業ポートフォリオにおいては、工作機械事業をグループの第2の柱に育成するという戦略に沿って、目標を達成し大きな成果を上げることができました。工作機械事業は、精密な時計部品を製造するための機械を内製したことに始まったものであり、シチズンのDNAを受け継ぐ本事業が創業100周年を経て、第2の柱として成長したことの意義は大きいと捉えています。

この6年間で、次なる飛躍のための布石を打ち、体制を整えてきました。今年度から始まる新中期経営計画では、企業価値向上に向けた、新たな価値創造への取り組みを加速していきます。

グループを取り巻く環境

マクロ環境	ライフスタイルの変化	<ul style="list-style-type: none"> IoTやAIなど、デジタルイノベーションの急速な進展 環境規制、超高齢化による社会変化 ライフスタイルの変容と多様化 日本は労働力人口が2021年にピークアウト、人手不足が深刻化
ビジネス環境	ビジネス環境の変化と多様化	<ul style="list-style-type: none"> ECの進展による流通の変化と多様化 SDGsやESGなど、サステナブル経営の必要性 グローバル競争環境の激化と競争軸の多様化 労働集約型ものづくりの終局
市場環境	成長ドライバーの変化	<ul style="list-style-type: none"> 北米、欧州、中国の成長率は中期的には鈍化傾向 米中貿易戦争による景気への悪影響 アジア新興国は成長センターへ 日本は消費増税とオリンピック開催により需要が大きく変動

業績の推移 (セグメント別営業利益/ROE)



シチズングローバルプラン2018

「真のグローバル企業」を目指して～スピードと活力の溢れる企業グループへ～



重点施策

1 徹底した体質強化/製造力の強化

- 時計事業を中心に国内・海外生産拠点の統廃合などの構造改革による体制整備
- △ 製造革新の進捗遅れ
- ・ 時計関連6社を統合し、シチズン時計マニュファクチャリング設立
- ・ 海外製造拠点の統廃合
- ・ 事業持株会社体制に移行し、グループ一体運営を強化

2 事業成長に向けた積極的投資とマーケティング力の強化

- 時計事業の成長投資であるブランド買収やライセンス契約締結
- マーケティング強化のための販社の統合や設立
- △ デジタルマーケティングへの対応遅れ
- ・ 世界最大級のムーブメント組立工場 ミヨタ佐久工場竣工ムーブメント製造ラインを集約
- ・ スイス高級腕時計メーカー フレデリック・コンスタント社買収
- ・ 米国フォッシル社とスマートウォッチに関する業務提携契約締結

3 製品・事業の選択と集中

- 不採算事業の撤退と、デバイス事業会社の合併など選択と集中の推進
- ・ デバイス事業2社を統合し、シチズンファインデバイス設立
- ・ 大型ドットプリンター事業からの撤退 など

4 人の生産性改善と人材力強化

- 役割と成果に応じた報酬体系への移行を実施
- グループでの一括採用や、グループ幹部候補生ローテーションなどを開始

中期経営計画 2021 | Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～

時代（とき）の変化に敏感となり、シチズンは従来のものづくりに留まらず、
今までにない新たな価値創造に挑戦し、持続可能な未来に感動を創ります。

中期経営計画目標(2021年度)

売上高	営業利益	ROE
3,700 億円	300 億円	8.0%

重点施策

時計・工作機械事業の成長促進 ▶ P. 16	サステナブル経営の推進 ▶ P. 6	品質コンプライアンスの強化 ▶ P. 8
----------------------------------	------------------------------	--------------------------------

株主還元

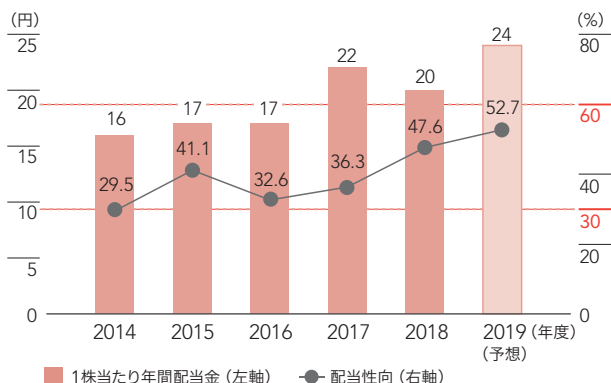
シチズングローバルプラン2018
基本方針：3年平均で株主還元性向30%以上

▼

中期経営計画 2021
基本方針：3年平均で株主還元性向*60%以上
配当方針：業績連動と安定配当のバランスを勘案し、決定

*株主還元性向：配当と自社株買いを合わせた金額の当期純利益の割合

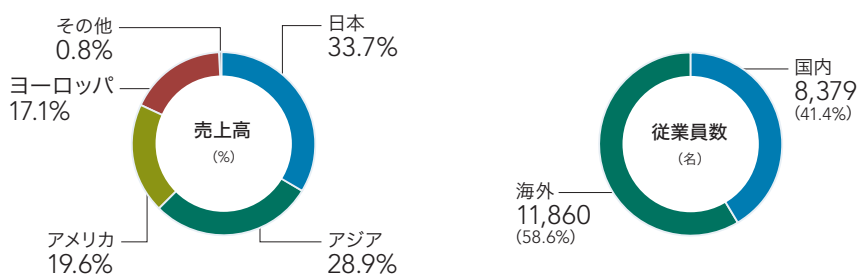
1株当たり年間配当金および配当性向



2018年度の実績

売上高	営業利益	当期純利益	ROE
3,216 億円	224 億円	133 億円	5.2%
(前年同期比0.5% ↗)	(前年同期比△10.1% ↘)	(前年同期比△30.7% ↘)	(前年同期比△2.6% ↘)

地域別データ



「中期経営計画 2021」における財務戦略

「中期経営計画 2021」策定の背景と注力ポイント

「中期経営計画 2021」におけるグループ中期経営ビジョン「Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～」には、時の変化を敏感に捉え、従来のものづくりだけでなく、今までにない新たな価値創造に挑戦し、持続可能な未来に向けて感動をつくる、という意志が込められています。

当社グループを取り巻く環境は、年々スピードを増して変化しています。時計事業においては、ライフスタイルの変化と価値観の多様化をつかみ、個のライフスタイルに合わせた製品の提案、そしてそれを手にするまでの時間体験も含めた、魅力あふれる顧客体験の提供が求められています。その実現に向けて、時計事業ではデジタルマーケティング関連の投資も実施していく計画です。また、成長が見込まれるスマートウォッチ領域への本格参入をはじめとした製品領域の拡大や、「シチズングローバルプラン2018」で推進したマルチブランド戦略の成果の発現に力を注ぎ、再び時計事業を成長軌道に乗せていきます。さらに、時計製造においては、マーケティング戦略の変化に応じた多品種少量生産、徹底した合理化・自動化による生産性向上への取り組みを強化します。製造革新を進めるうえでは、『個の量産』を標榜する工作機械事業など、グループ会社と連携しシナジー効果を発揮していきます。

コア事業に位置づけた工業機械事業については、生産革新と経営効率のさらなる強化、新興国における売上拡大により、一層の事業成長を目指します。

資本政策の基本方針

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」では、前期3年間の構造改革によって生み出した資金を、積極的に成長投資へ配分。スイスのブランド「Frederique Constant」の買収や、海外にある全てのディズニーテーマパークとオフィシャルタイムピース契約を締結するなど、マルチブランド戦略を推し進めるブランドポートフォリオを確立したほか、海外販社の統合を進め、マルチブランド商品の拡販に向けた強固な販売基盤を整えました。また、世界最大級のムーブメント組立工場を長野県佐久市に建設するなど、次なる成長への投資を集中的に実施しました。

「中期経営計画 2021」においても、成長投資を最優先とするスタンスに変更はなく、製造革新への積極的な設備投資を継続しますが、大型投資については一巡したことから、投資と株主還元のバランスを見直し、“株主還元性向を期間中3年間の平均で60%以上”とする方針としました。

また、「中期経営計画 2021」の目標指標の一つにROEを設定。社内的には、ROIC（投下資本利益率）をKPIとし、各事業における投資効率やバランスシートに対する意識を高め、資本効率と稼ぐ力の向上を目指しています。今後はこれまで築き上げたアセットを最大限に活用し、収益拡大に注力するとともに、成長投資と株主還元の両立を図っていく考えです。

事業ポートフォリオの考え方

コア	時計事業	・ 経営資源を積極投下し、グループの成長を牽引
	工作機械事業	・ 市場拡大に合わせ投資を継続し、さらなる成長
利益創出	車載関連事業 (金属部品、LEDなど)	・ 車載関連市場向けの部品加工ビジネスの確実な利益創出 ・ カテゴリートップレベルの製造力の実現
収益改善	デバイス／電子機器 その他の事業	・ 事業、製品の選択と集中

時計事業

主な事業会社

シチズン時計株式会社/シチズン時計マニュファクチャリング株式会社

シチズンリテイルプランニング株式会社/シチズンTIC株式会社



時を通して新たな価値と体験を創造する

目標指標(2021年度)

重点施策

売上高

1,870億円

営業利益

170億円

- 1 デジタルマーケティングの推進
- 2 製品領域の拡大
- 3 シチズンブランドを核にしたマルチブランド戦略の成果発現
- 4 製造革新によるムーブメントおよび完成品のコスト力強化

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の振り返り

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の前中期3年間（2013年度～2015年度）の時計事業については、「製品からブランドへ」のスローガンのもと、ブランドマーケティングを強化し、マルチブランド戦略を推進しました。時計市場は、2000年代に入るとブランドビジネスの時代に突入し、強力なブランドを擁するスイス勢とファッションブランドが台頭してきました。世界中に、それぞれの個性とDNAを持ったブランドが乱立する状況の中、シチズンブランド単体では、多様なニーズに対応し事業拡大を図っていくことに限界があるとの危機感から、マルチブランド戦略に舵を切りました。その中核を担ったのがM&A戦略です。2008年の米国の中価格帯において独自の地位を築いているブローバ社の買収を皮切りに、2012年にはスイスの高級機械式技術とラグジュアリーブランドを保有するプロサー社、2016年にはス

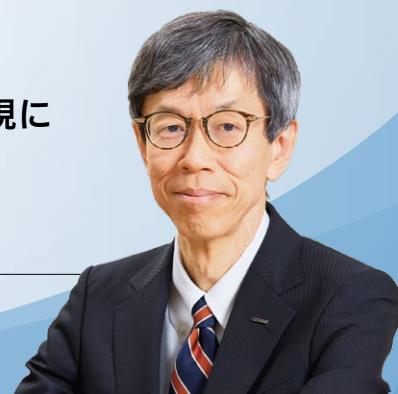
イスの高級腕時計メーカーであるフレデリック・コンスタント社を買収し、高価格帯から中価格帯に至る、強固なブランドポートフォリオを構築しました。

続いて、積極投資による業績拡大を主眼に置いた後期3年間（2016年度～2018年度）では、米国での販売会社をブランド横断で統合し、北米の中価格帯市場に圧倒的なシェアを確立しました。マルチブランド戦略の最初の成果は「BULOVA」の大きな成長であったと評価しています。一方、基幹ブランドであるシチズンブランドについては、そこに込めてきた私たちの信念を「BETTER STARTS NOW」というブランドステートメントに凝縮し、世界に向けたマーケティング活動を2014年度より推進しました。「世界で勝ち抜く真のグローバル企業」を目指す体制は、すでに準備されたと認識しています。シチズンブランドを中心に、各ブランドの魅力あるストーリーを発信し、市場ニーズを流通レベルにまで細分化し対応するセグメンテーション戦略を加速しながら、マルチブランド戦略をさらに進化させていきます。

事業担当者
メッセージ

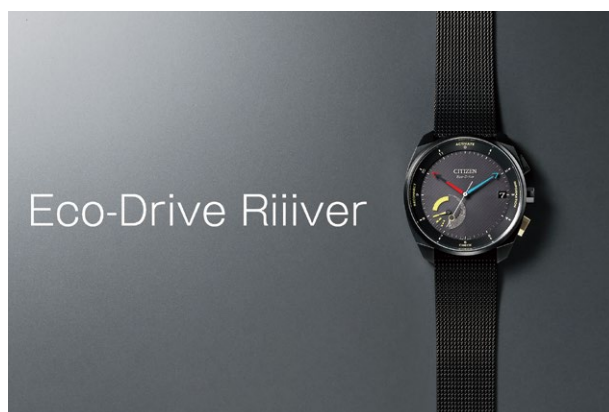
「BETTER STARTS NOW」の実現に 向け、新しい「時」の表現の創出を 目指します。

常務取締役 竹内 則夫



「中期経営計画 2021」の注力領域

今後の時計事業の市場環境については、スイス勢を中心とした高級品や機械式市場が安定した需要を維持するとともに、スマートウォッチ市場が今後も拡大を続けると予想しています。「中期経営計画 2021」では、世界的に消費者の支持を獲得しつつあるスマートウォッチ領域への本格参入を目指します。この重点施策に取り組むため、ハイブリッドスマートウォッチ分野で米国のフォッシル社と提携しました。さらに、B to B、B to Cを問わず、腕時計を含むさまざまなデバイスを起点にして、ヒト・モノ・コトを有機的につなぐまったく新しいビジネスモデルとして、IoTプラットフォームサービス「Riiiver(リイバー)」に取り組みます。2019年秋には、「Riiiver」に対応したスマートウォッチ「Eco-Drive Riiiver」を発売する予定です。また、機械式および高級品については、引き続き中長期的な育成を図っていく方針です。

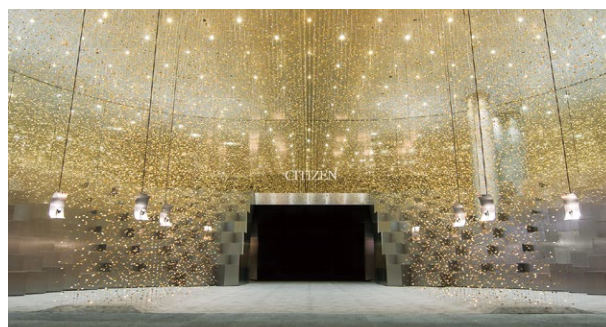


Eco-Drive Riiiver

当社にはトラディショナルな時計の価値に徹底的にこだわりつつ、新しいフィールドにおける挑戦も辞さない、柔軟で革新的な文化があります。シチズンが初めてスマートウォッチの先駆けと言える商品を上市したのは2000年代初頭であ

り、その後も、2006年に世界初のBluetooth®搭載腕時計「アイバート」を発売するなど、各時代における最新のテクノロジーの導入に積極果敢に取り組んできました。スマートウォッチという機能が重視される領域であっても、「決して美しさを犠牲にしないこと」がシチズンの製品戦略の大前提です。当社の強みは、100年にわたり培ってきた部品から完成品までを一貫製造できるマニファクチュールとしての技術力・開発力・品質力にあります。それを基盤として多くの“世界初”を達成し、世界最速・世界最薄といったシチズンにしか創造できない新たな価値を提供し、時計の可能性を広げてきました。2019年3月にスイスで開催された世界最大の宝飾と時計の見本市「BASELWORLD 2019」では、「We Explore Time—時を探求する」をテーマに、世界初「年差±1秒」の超高精度のエコ・ドライブムーブメント「Caliber 0100」を搭載した腕時計を発表し、注目を集めています。

時計業界もまた、時代の大きなパラダイムシフトに直面する中、私たちは事業ビジョンの実現に向け、マニファクチュールの進化が生んだ“モノ”の価値にさらに磨きをかけるとともに、時計を開かれた世界に開放し、バリューチェーン全体を刷新することで、新たな“コト”の価値と経験を、現代を生きる革新的で行動的なすべての「市民」に提供していきます。そして、アナログ（針）の価値をアップデートし、新たなデジタル時代に向けて、まだ見ぬ「時」の表現の創出を目指していきたいと思えます。



BASELWORLD 2019

マルチブランド戦略

Luxury



ANGELUS

スイスの工房にて1891年に誕生した「ANGELUS」は、高精度のクロノグラフや複雑機械式腕時計など画期的なムーブメント時計を次々と開発しました。



ARNOLD & SON

永く受け継がれてきた英国様式と高級時計の伝統的な知識を備えたスイスのマニュファクチュールです。ユニークで革新的なデザインや芸術的な美しさ、機械的な優美さを備えています。

High



The CITIZEN

シチズンの最高峰ブランドとして、揺るぎない技術に基づく、厳格な精度基準による専用設計のムーブメントを搭載。流行に左右されないデザインに徹しています。2019年秋に、光発電腕時計としての世界最高精度「年差±1秒」を持つエコ・ドライブ ムーブメント「Caliber 0100」を搭載したモデルを発売予定。時計の本質を追求するシチズンの強い意志を表現しています。



Frederique Constant

1988年より革新を続けて30年余。“手の届くラグジュアリー”をコンセプトに、デザイン、開発から組立に至るまで一貫して自社で行う体制を整えてきました。2004年から現在に至るまでに28種類の自社キャリバーの開発、製造、組立を実施。優れた時計製造を通じて、できるだけ多くの時計愛好家に高品質な製品を適正な価格で提供することを使命としています。



CAMPANOLA

“時を愉しむ、日常を愉しむ、個性を愉しむ”をテーマに、究極のメカニズムと美しさを持つ独創的なモデルを取り揃えています。



Alpina

130年以上にわたる歴史を誇り、スイスの時計産業のパイオニアとして多数の特許を取得。革新的なキャリバーを開発してきました。

注力領域

1 スマートウォッチ

2019年、IoTプラットフォームサービス「Riiiver」と「Riiiver」に対応したスマートウォッチ「Eco-Drive Riiiver」をローンチし、スマートウォッチにおける業界ポジションの確立を目指します。また、米国ファッションウォッチブランド フォッ

シル社と業務提携し、ハイブリッドスマートウォッチのムーブメントおよび完成時計の開発と製造、販売を促進。スマートウォッチ市場をリードしていきます。

2 機械式

シチズンは、世界でも数社しかつづけないといわれる「ひげぜんまい」をはじめ、「貴石」や「歯車」までを自社生産できる真のマニュファクチュールとして、総計1億個を超える機械式時計ムーブメントを自社で一貫製造



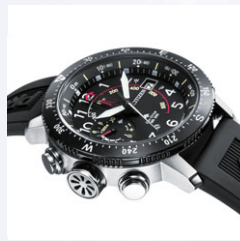
Eco-Drive One

CITIZEN

「CITIZEN」は、1918年の誕生以来、世界約140の国と地域でグローバル展開しています。世界に先駆け開発した光発電技術「エコ・ドライブ」や最先端の衛星電波時計など、常に時計の新たな可能性を考えて開発してきました。主な製品ラインアップに、進化を続けているビジネスウォッチ「ATTESA」、現代女性のライフスタイルに寄り添う高機能ウォッチ「xC」、新感覚ラグジュアリーウォッチ「CITIZEN L」があります。



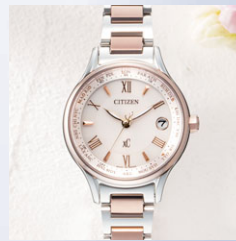
ATTESA



PROMASTER



CITIZEN L



xC



エコ・ドライブ Bluetooth



BULOVA

時計の発展と近代化への取り組みを“A History Of Firsts”というメッセージで表現している「BULOVA」は、1875年より、数々の先進的な技術力をもとにマーケットを牽引。140年以上にわたり、世界初の音叉式電子腕時計やカーブクロノグラフなど、数多くの業界「初」を成し遂げ、時計史において革新的かつ重要な役割を果たしてきました。



Q&Q

「TIME FOR EVERYONE 幸福な時を地上すべての人に」をコンセプトとした光発電・電気交換不要の「Q&Q SmileSolar」をはじめ、120カ国、年間1,000万個以上の時計を提供しています。



wicca

「wicca」の名前の由来は、夢をかなえる“魔法”という意味。毎日を自分らしく楽しみたい女の子を応援するブランドです。

してきました。さらに、「La Joux-Perret」「Frederique Constant」など他ブランドの技術力を活用することで、機械式ムーブメントや部品の製造の飽くなき革新に挑みます。

3 高級品

時計の美しさを支える、コアテクノロジー。シチズンは類いなき先進性と独自性を発揮しながらテクノロジーの追求を続けてきました。「CITIZEN Eco-Drive One」「Frederique Constant」といったシチズンならではの価値

を提供する高級ウォッチに注力し、「技術と美の融合」を高い次元で実現していきます。

先進のものづくりの追求

光発電技術

シチズン時計の基幹技術の一つ、「エコ・ドライブ」。文字板を通過した光が、ソーラーセルで電気エネルギーに変換され、二次電池に充電、モーターに伝わることで針を動かすという、1976年にシチズン時計が世界で初めて手がけた技術です。太陽光だけでなくわずかな光でも充電でき、定期的な電池交換をすることなく、1回のフル充電で6ヵ月以上駆動するまでに進化を遂げた「エコ・ドライブ」。さらなる可能性を追い求め、さまざまな取り組みを行っています。

エコ・ドライブの3つの特長

1. わずかな光でも駆動可能
2. 定期的な電池交換が不要
3. フル充電で6ヵ月以上駆動



電波受信技術

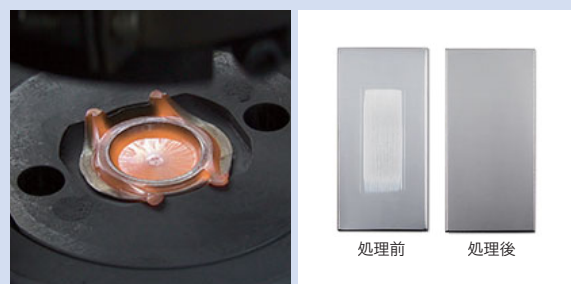
シチズン時計では、アナログ式フルメタル電波時計として世界最薄モデルや、世界最小となる一円玉サイズのムーブメントを搭載した電波時計の製品化を行ってきました。さらに世界4エリアで受信可能なエコ・ドライブ電波時計を開発。電波時計の進化をリードしています。そして、地球から約2万km離れたGPS衛星から時刻情報を受信するアナログ式光発電時計として、世界初の「エコ・ドライブ サテライト ウェーブ」を製品化。さらに、時刻情報に加えて位置情報取得機能を搭載したことで、自動でタイムゾーンを判別し、時刻・カレンダー情報を修正するエコ・ドライブGPS衛星電波時計が誕生しました。

外装技術

時計のガラス面に光の反射を抑える薄膜を数nmレベル*で何層にも積み上げて構成し、文字板の視認性を向上させる表面処理技術が「無反射コーティング」です。ガラスの内側のみにコーティングするのが一般的ですが、シチズン時計では透過性に加えて傷・汚れがつきにくい薄膜を開発。両面無反射コーティングを可能にし、高い透明性を実現しました。

また、表面硬化技術として、素材表面に特殊な処理を施し、硬さを素材の3～5倍にまで高める技術が「デュラテクト」です。これにより、美しい輝きを長期にわたって保てるようになりました。

*1nm = 0.000001mm

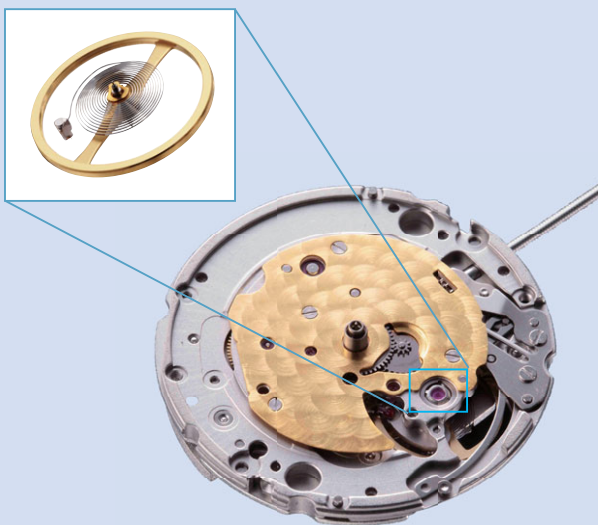


チタニウムのプレス加工

「デュラテクト」のすりキズ比較

組立技術

シチズン時計では、最高級の技能レベルを修得し、難関の技能検定制度に合格した最高ランクの匠に与えられる称号を「スーパーマイスター」と呼びます。スーパーマイスターは、「The CITIZEN」や高級電波時計など、高級商品群の組み立てを受け持ち、完成した時計の裏蓋にシリアルナンバーを刻印。誰が製作したかがわかるようになっています。また、歴代のスーパーマイスターのうち、過去には黄綬褒章に1名、厚生労働省が表彰する「現代の名工」に2名が選ばれました。シチズン時計は、機械では成し得ない、人の手による匠の技を継承し、守り続けます。



機械式時計技術

シチズン時計は、時計専用の加工装置・組立装置の開発を行うだけでなく、世界でも数社しかつくりえないといわれる極めて高度な技術を要する重要部品「ひげぜんまい」をはじめ、「貴石」や「歯車」までを自社生産できる真のマニュファクチュールです。その創意工夫豊かなものづくりにより、高度な生産性とお客さまに信頼される高品質を実現しています。その技術は、クォーツ時計やエコ・ドライブ製品にも活かされています。

ムーブメント

時計の心臓部である駆動装置、ムーブメントにおいても、シチズン時計は業界トップレベルの外販実績を有し、その品質と信頼性は世界で高い評価を得ています。高精度なメタル部品が組み込まれたクォーツムーブメントや機械式ムーブメントは、徹底した品質管理のもと、日本国内で生産され、さまざまなブランドで使用されています。30年のロングセラーを誇る「Cal.2035」へも継続した改良を加え、機械式ムーブメントでは「Cal.9000」シリーズを開発するなど、ムーブメント業界の先駆者として、今後もさらなる付加価値を創り出していきます。



工作機械事業

主な事業会社

シチズンマシナリー株式会社

株式会社ミヤノ・サービス・エンジニアリング



世界最先端の生産革新ソリューションを創造し 「新・モノづくり企業」のポジションを確立する

目標指標 (2021年度)

重点施策

売上高

800億円

営業利益

130億円

1 生産革新による強固な事業基盤確立

2 既存事業の拡販推進

3 IoT・ICT時代に対応した事業拡充 (ソリューション事業)

前中期経営計画「シチズングローバル プラン2018」の振り返り

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」がスタートした2013年度、当時は顧客の設備投資抑制もあり、厳しい船出となりましたが、「世界最先端の生産革新ソリューションを創造し「新・モノづくり企業」のポジションを確立する」という事業ビジョンを掲げ、時計事業に次ぐ第2の柱へと成長すべく取り組んできました。その結果、国内外ともに好調に推移した工作機械市場の追い風もあり、「シチズングローバルプラン2018」の数値目標を前倒しで達成。工作機械市場の成長率をしのぐ業績を上げ、第2の柱としての役割を果たすことができたと評価しています。

シチズンマシナリーは創立時から複数の組織と事業統合を重ねてきました。異なるバックボーンを持つ社員のベクトルを合わせるため、2013年度に策定した事業ビジョンの実現を目指し、一体感を持って取り組みました。その成果が現

在の業績を支えています。

事業ビジョンを実現するためのコンセプトは『個の量産』。量産的な「効率性」と、「望むものを、好きなだけ、欲しい時に、どこでも」という柔軟性を両立した、「世界最先端の生産革新ソリューション」の提供です。製品開発においても、常に答えは現場にあるという姿勢が基本です。お客さまの声の中には開発のヒントが潜在しており、その好事例がLFV(低周波振動切削)技術です。旋削加工で課題となっていた切りくず処理のイノベーションとして開発に成功し、製品への横展開ができたことは大きな成果です。

2018年の日本国際工作機械見本市では、「機械」「IoT」「使いこなす技術」の三位一体ソリューションの提案を、展示会コンセプト“人を活かす、機械を活かす、技術で活かす”として、お客さまの課題解決に向けた新製品の発表を行いました。

事業担当者
メッセージ

お客さまに最高のパフォーマンスを
発揮していただける、トータルソリューションの
提供を目指します。

取締役 中島 圭一



「中期経営計画 2021」の注力領域

ここ数年は世界的な活況に沸いていた工作機械業界ですが、2018年後半より減速傾向が見られます。工作機械事業は景気変動の影響を受けやすい面がありますが、中長期的には「IoT化」「省人化」「新興国の台頭」などで需要は伸びていくものと見ており、事業ビジョンでも掲げている「新・モノづくり企業」のポジションを確立すべく、次なる成長を加速させていく考えです。

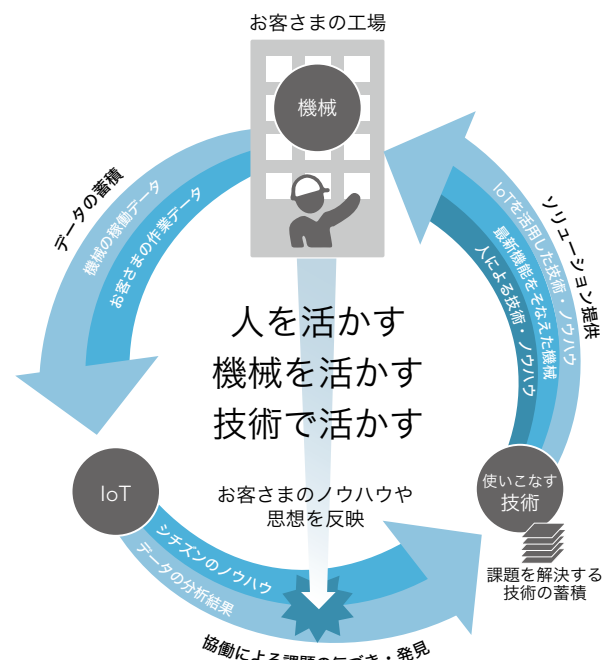
「中期経営計画 2021」では、①生産革新による強固な事業基盤確立、②既存事業の拡販推進、③IoT・ICT時代に対応した事業拡充（ソリューション事業）の3つの重点施策を通じ、お客さまの価値創造を支えています。

「生産革新による強固な事業基盤確立」については、現状の経営資源を最大限に効率化させる生産革新を実現し、さらなる成長を目指すための体制づくりを推進。モノづくりや業務プロセスを見直し、筋肉質な収益体質への変革を進めます。具体的には、国内外工場の自動化・スマート化の推進に加え、開発・生産・販売・サービスといった業務プロセス全体についてもムダを排除し、何が最適かを見極めていく必要があります。また、社員には、自分たちの進化がお客さまの競争力の源泉になるという自負・自覚とスピード感を持って、お客さまの価値創造力の最大化に貢献していくパートナーであるよう鼓舞しています。

「既存事業の拡販推進」では、主に中国、インド、ASEANにおける拡販を推進。低価格帯モデルをはじめ、LFV搭載機種、自動化対応のモデルや工程集約が可能な中価格帯の販売を推進していきます。日本・米国・欧州については、シェアの維持・向上を目指します。また、自動旋盤にとって最も影響のある自動車産業の動向を注視し、自動車部品加工に実績のあるマルチステーションマシニングセル「MC20」の

グローバル販売体制およびサービス体制を強化していきます。「Cincom」と「Miyano」の強みをあわせ持つ「MC20」は、大量生産と変種・変量生産を同時に実現する、次世代型自動旋盤として今後も注力していきます。

「IoT・ICT時代に対応した事業拡充（ソリューション事業）」については、お客さまに付加価値を提供するため、製品だけでなく、これからは「機械」「IoT」「使いこなす技術」の三位一体ソリューションで、一歩先を行く存在であり続けたいと思っています。具体的には「alkappliesolution（アルカプリソリューション）」の一環として、機械の稼働率向上支援やプログラム作成サービスなど、新たな商材の発掘・開発により、ストック型サービスを構築する考えです。これらを推進することで、お客さまの成長に貢献するトータルソリューションを提供し続けます。



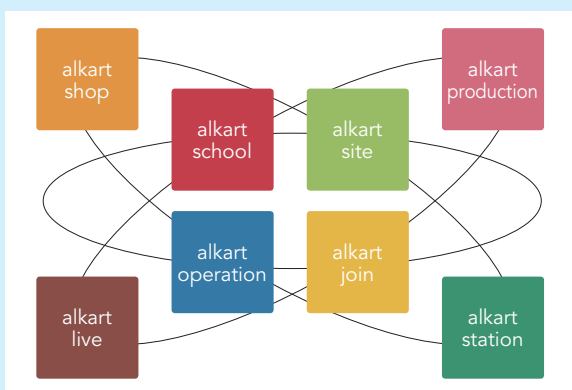
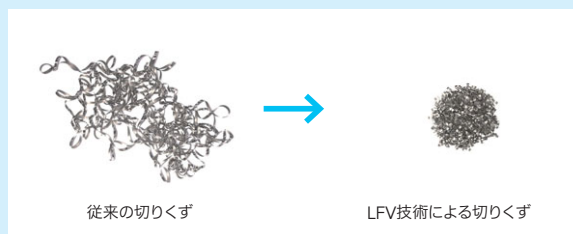
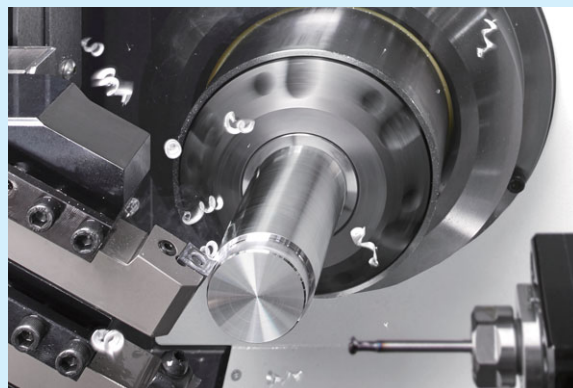
先進のモノづくりの追求

LFV* (低周波振動切削) 技術

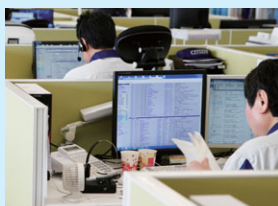
さらなる生産性向上を実現する、新世代の加工技術であるLFV技術。シチズン独自の制御技術により、サーボ軸を切削方向に振動挙動させ、切削中に刃物が当たらない“空振り”時間を設けることで、切りくずを分断しながら加工します。そのため、小径深穴加工の効率向上や、切りくずが長くなりやすい難削材旋削加工においても確実に切りくずを細かく切断できるなど、切削加工において長年の課題であった切りくずに関するさまざまな課題を解決しました。切りくず容量の大幅縮小や、ワーク表面への傷防止などにより、長時間高精度加工も実現します。

さらに、「ねじ切り対応機能」を新たに開発。ねじ切り加工対応のLFV技術（特許出願中）は、これまでのLFV技術とは異なり、長手方向（Z軸）に切削中に切り込み方向（X軸）が振動挙動することで、ねじ切り加工時の切りくずを分断する画期的な技術です。

*「LFV」はシチズン時計株式会社の登録商標です。



「alkapplysolution」のサービス概念図



エンジニアによる遠隔サポート



修理サービス

トータルソリューションを提供する alkapplysolution (アルカプリソリューション)

「alkapplysolution」は、インターネットを活用した革新的なサービスです。シチズンマシナリーに蓄積した技術ノウハウ、機能とICTを融合し、多様なソリューションを提供します。alkapplysolutionは、それ自体に「社員教育およびプログラム作成、自主メンテナンス」「生産指示」「機械稼働監視」「遠隔メンテサポート」といった『個の量産』を実現するための多くの重要なテクノロジーを含んでいます。そして同時に、技術者や工場管理者を含め、さまざまな機械装置の機能と技術ノウハウを組み合わせたり、融合したりするために、これらを「つなぐ」役割も担います。近い将来には、グローバルに広がるモノづくりを視野に入れ、遠隔地の複数の工場をあたかも1つの工場のように「つなぐ」ことも可能となります。

CNC自動旋盤とは

旋盤とは、回転する素材を切削加工する、モノづくりには欠かせない工作機械のこと。1950年代に入り、それまで手動で行っていた操作をコンピュータによる数値制御で自動化したNC旋盤が誕生。さらに、自動化のレベルが進む中、当社は、1968年に世界で初めてコンピュータを内蔵したCNC自動旋盤を開発。今では、世界トップクラスのシェアを誇っています。

主軸台移動形CNC自動旋盤 Cincom(シンコム)

「Cincom」は、時計部品製造で培った小径高精度加工技術・小型化技術に加え、高生産性を実現するNC制御技術、ネットワーク技術対応など、先進的な技術を開発・商品化。高精度かつ高速加工に優れ、使いやすさでも定評があります。また、個々の部品加工ニーズに合った最適なアプリケーションを提供しており、自動車・医療・ITなど幅広い業界のモノづくり革新に寄与しています。



Cincom A20



BNC42

主軸台固定形CNC自動旋盤 Miyano(ミヤノ)

「Miyano」は、工業用精密やすりの製造を起点に、1948年には独自技術により純国産の主軸台固定形自動旋盤の開発に成功。重切削を可能とする高剛性により、世界中のお客さまから好評を得ています。さらに、充実のラインアップと周辺機器のトータルソリューションで多彩なニーズに対応。自動車、建機、油空圧機器分野を中心に、信頼性・耐久性に優れた機械を提供しています。

マルチステーションマシニングセル MC20

21世紀のモノづくりでは、大量生産と変種・変量生産という、両極のトレンドへの対応が求められるようになってきました。マルチステーションマシニングセル「MC20」は、『個の量産』コンセプトを製品として具現化できます。加工モジュールの組み合わせによるマルチステーション化で、加工工程を最適配分することができ、さまざまな工程レイアウトに柔軟に対応します。

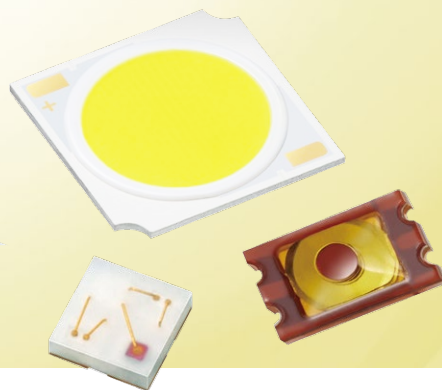


MC20

デバイス事業

主な事業会社

シチズン電子株式会社／シチズンファインデバイス株式会社
 シチズンマイクロ株式会社／シチズン電子タイメル株式会社
 シチズン電子船引株式会社／株式会社フジミ／シチズン千葉精密株式会社



差別化製品の提案で、特定領域No.1を確立 次なる成長事業の創出へ

重点施策

- 1 「小型金属加工事業」をコアに、
多様な車載関連製品を展開
 - 自動車部品事業を中心に競争優位を確立
 - 高付加価値化、大量生産・合理化を進め、
自動車関連以外への領域拡大
- 2 市場変化に対応した
高品質・高付加価値製品の拡大
 - LEDやタクティルスイッチなど、独自技術や
差別化技術を活用したシェア拡大
- 3 利益向上による経営の安定化促進

「中期経営計画 2021」の注力領域

デバイス事業は、時計製造で培った「小型化」「精密加工」「低消費電力」の技術を応用し、人々の暮らしや社会を支えるさまざまな部品や製品を提供しています。

「中期経営計画 2021」では、コア技術である小型金属部品加工技術に定評のある「自動車部品」を中核に、競争優位性を確立していきます。自動車部品は、「安全」「快適」「環境」「制御」という4つの領域で製品を提供。自動車機能部品を中心に、世界中の自動車メーカーへ供給しています。また、自社製設備による合理化と一貫加工体制で付加価値創出を図り、自動車関連以外への領域拡大を目指します。

小型・軽量・長寿命。高いデザイン性と機能性を誇る「照明用LED」や、スマートフォン、デジタルカメラなどの重要な部品である「タクティルスイッチ」「水晶デバイス部品」、および「強誘電性液晶ディスプレイ」などについては、独自技術や差別化技術を活用し、市場変化に対応した高品質・高付加価値製品の拡大を図ります。

今後も、さらなる小型化・精密化・低消費電力化に注力。特定領域でNo.1のポジションを確立し、次なる成長事業の創出を図るとともに、筋肉質な収益体質へと変革し、経営の安定化を進めていきます。



照明用LED



自動車部品



水晶振動子／発振器



強誘電性液晶マイクロディスプレイ

電子機器事業

主な事業会社

シチズン・システムズ株式会社



世界中で人の役に立つ価値を提供

電子機器事業は、腕時計を起源とする小型精密技術をベースに、フォトプリンター・小型プリンターといったプリンター事業、血圧計・体温計といった健康機器事業、および電卓事業を展開しています。高品質・高信頼性の業務用プリンターとフォトプリンターを事業の核とし、グローバルニッチ市場を中心とした事業展開を図り、安定的な利益の創出を目指しています。

日々進化が求められるビジネス環境や、日々変わらず健康で穏やかな暮らしが求められる日常の中で、電子機器製品はますます存在感を高めています。今後も、人々の健康や暮らしを見つめながら、新たな価値と便利さを追求していきます。



電子体温計



電子血圧計



耳／額式体温計 CTD711



フォトプリンター

その他の事業

主な事業会社

シチズン宝飾株式会社

株式会社東京美術

シチズンプラザ株式会社



時を刻む技術を、 喜びを刻むサービスへ

シチズングループは、マリッジリングなどの宝飾品に加え、アイススケートやボウリングなどのレジャーサービスも手がけています。宝飾品では、ファッションデザイナーとのコラボレーションや、「ディズニー プライダルコレクション」など、時代を先取りしたユニークな製品を発売。一方、「シチズンプラザ」（東京・高田馬場）は、年間営業のアイススケート場と本格派のウッドレーンのボウリング場、カルチャーセンターなどを備えた複合スポーツ施設で、校外授業にも対応しています。

今後も、社会のニーズ、時代のニーズに的確に応えていくことで、お客さまに満足していただける製品とサービスを提供していきます。



シチズンプラザ アイススケート場



シチズンプラザ ボウリング場

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

当社は社名の由来である「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念とし、地域社会はもとより地球環境と調和した永続的な企業活動を通して、社会への貢献とともに企業価値を向上させていくことに努めています。この企業目的を継続的に高めていくためには、経営の透明性確保と多面的な経営への監視機能が重要であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実にに向けた取り組みを実施しています。

コーポレート・ガバナンス体制について

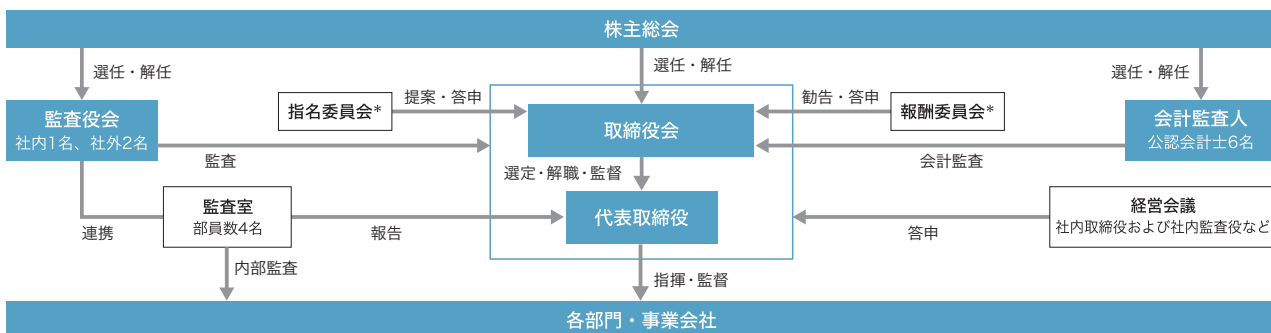
当社の取締役会は、企業グループを統括するとともに主要な事業の業務執行を行う取締役8名および独立した立場から経営者としての豊富な経験と幅広い見識を活かして経営のチェック・監督を行う3名の社外取締役で構成しています。当社は監査役会を設置し、企業財務・会社法務などの高い知識や見識を有する社外監査役2名を含む3名の監査役で監査を行っています。

また、当社は経営の透明性を高めるために、任意の機関として指名委員会および報酬委員会を設置しています。

指名委員会は、代表取締役、取締役社長および取締役会長の選定に関する事項を審議し、取締役会に提案することなどを主な職務としており、報酬委員会は、取締役が受ける報酬の方針および基準に関する事項を審議し、取締役会に対し勧告することなどを主な職務としています。

各委員会は、取締役会の決議によって選定された3名以上の取締役で構成されており、委員の過半数は社外取締役が占め、1名以上の代表取締役を含むものとしています。なお、各委員会の委員長は、委員の互選によって社外取締役から定めています。

上記の体制を採用することにより、適正かつ効率的な職務の執行および経営の透明性確保ならびに多面的な経営への監視機能を確保できると判断しています。



*委員長：社外取締役
構成人数：取締役3名以上（うち過半数は社外取締役で、1名以上の代表取締役を含む）

社外取締役および社外監査役について

当社では、社外取締役3名、社外監査役2名を選任しています。3名の社外取締役は、経営者や法律家としての豊富な経験と幅広い見識を活かして、当社経営のチェック、監督をしており、2名の社外監査役は、銀行経営者や法律家としての豊富な経験と幅広い見

識、財務および会計に関する知見を活かして監査をしており、当社のコーポレート・ガバナンスの維持・推進にあたって、十分な体制であると考えています。

役職	氏名	選任の理由
社外取締役	寺坂 史明	経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営のチェックや監督に活かしていただくため、社外取締役に選任しています。
社外取締役	窪木 登志子	弁護士としての豊富な経験と見識を有しており、弁護士としての専門的見地および会社の社外取締役としての経験を当社の経営のチェックや監督に活かしていただけることおよび当社の社外監査役としての実績などを踏まえ、社外取締役として適任と判断しました。同氏は、これまで社外取締役又は社外監査役となること以外の方法で会社の経営に関与したことはありませんが、弁護士として会社法務に精通しており、社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、新たに社外取締役選任しています。
社外取締役	大澤 善雄	経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営のチェックや監督に活かしていただくことが期待できるため、新たに社外取締役に選任しています。
社外監査役	赤塚 昇	銀行および会社の経営者を長年務めたことによる高い知識や経験を有しており、これを当社の監査に活かしていただけることが期待できるため、社外監査役に選任しています。
社外監査役	石田 八重子	弁護士としての豊富な経験と見識を有しており、弁護士としての専門的見地を当社の監査に活かしていただけることを踏まえ、社外監査役として適任と判断しました。同氏は、これまで会社の経営に関与したことはありませんが、弁護士として会社法務に精通しており、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、新たに社外監査役に選任しています。

役員等の報酬制度

当社は役員等の報酬等において、業績向上意欲と優秀な人材の確保が可能となる水準で、かつ、経営環境の変化や外部データ、世間水準、経営内容を勘案し決定する方針としています。

また、役員賞与の額の決定においては、上記方針に加え、財務評価項目(売上高、営業利益など)および非財務評価項目(体質改善、体制改善、将来への布石など)により決定する方針としています。

取締役および監査役の報酬等の額

区分	員数(名)	報酬等の総額(百万円)	うち固定報酬(百万円)	うち賞与(百万円)	うち業績連動型株式報酬(百万円)
取締役(うち社外取締役)	10(2)	271(19)	174(19)	85(—)	11(—)
監査役(うち社外監査役)	4(3)	42(24)	42(24)	—(—)	—(—)
合計(うち社外役員)	14(5)	313(43)	216(43)	85(—)	11(—)

- (注) 1. 上記には、2018年6月27日開催の第133期定時株主総会の終結の時をもって退任した監査役を含んでいます。
2. 取締役(社外取締役を除く)に対する賞与85百万円は、2019年6月26日開催の第134期定時株主総会終結後に支給する予定の金額です。
3. 取締役(社外取締役および国内非居住者を除く)に対する業績連動型株式報酬11百万円は、当事業年度に係る費用計上額です。
4. 取締役(社外取締役を除く)に対する報酬等の総額は、2018年6月27日開催の第133期定時株主総会において年額370百万円以内(賞与等を含む)と決議いただいています。なお、使用人兼務取締役の使用人分給与は支給しないこととしています。
5. 上記4.とは別枠で、取締役(社外取締役および国内非居住者を除く)に対する業績連動型株式報酬の総額は、2018年6月27日開催の第133期定時株主総会において3事業年度を対象として300百万円以内(2018年に設定する当初は1事業年度を対象として100百万円以内)と決議いただいています。
6. 社外取締役の報酬等の総額は、2007年6月26日開催の第122期定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいています。なお、社外取締役には賞与を支給しないこととしています。
7. 監査役に対する報酬等の総額は、2007年6月26日開催の第122期定時株主総会において年額80百万円以内と決議いただいています。なお、監査役には賞与を支給しないこととしています。

取締役会の実効性の評価

取締役および監査役の兼任状況につきましては、事業報告および株主総会参考書類などにおいて開示しています。社外取締役1名および社外監査役1名(2019年3月時点)は、他の上場会社の

社外役員を兼務していますが、他の取締役および監査役は、他の上場会社の役員を兼任しておらず、当社グループの業務に専念しています。

1. 評価の方法	2. 評価結果の概要
<p>当社は取締役会の実効性を分析・評価するため、当社の取締役および監査役全員に対し、取締役会に関するアンケートを実施しました。また、アンケートに基づく分析・評価結果については、当社取締役会で確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象: 取締役および監査役全員(13名) 方法: 記名アンケート方式(氏名は原則非公開) 時期: 2019年3月 設問: 全21問 <ul style="list-style-type: none"> a. 取締役会の構成に関する質問(全4問) b. 取締役会の運営に関する質問(全6問) c. 取締役会の議題に関する質問(全7問) d. 取締役会を支える体制に関する質問(全4問) 	<p>取締役会の実効性評価に関するアンケートの結果については、各取締役および監査役の評価は総じて高く、取締役会の実効性は有効に機能していることを確認しました。なお、各設問に対する評価は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 取締役会の構成 取締役会の構成については、人数は適正であり、取締役会の構成員については、多様性が適切に確保されているなど、総じて適切であるとの評価でした。今後は女性の取締役を増員し、さらなる多様性の促進を望む意見がありました。 取締役会の運営 取締役会の運営については、取締役会の審議事項は事前に決定され、開催頻度は適切な範囲であるなど、概ね適切であるとの評価でありました。特に取締役会の資料については、以前より分かり易くなり、改善しているとの評価でした。 取締役会の議題 取締役会の議題は適切に選定され、企業戦略の大きな方向性を示す議題についても議論はなされているとの評価でありました。今後は中期経営計画の進捗、主要なリスク、トピックス等を含んだ事業報告等について、もう少し議論を深めても良いのではないかと意見がありました。 取締役会を支える体制 個々の取締役・監査役に適合したトレーニングの機会の提供については、適切に確保されており、情報提供を求める機会は、以前より改善されているとの評価でした。また、指名委員会、報酬委員会は適切に運営、答申されているとの評価でありました。

3. 今後の取り組み

当社取締役会は、この取締役会評価において認識された課題の改善に取り組み、取締役会の実効性の更なる向上に努めます。

- 当社取締役会は、2019年の定時株主総会において女性の社外取締役と社外監査役をそれぞれ1名選任しました。当社取締役会機能の更なる向上のために多様性の確保に努めます。
- 中期経営計画の進捗、主要なリスク、トピックス等を含んだ事業報告については、取締役会で定期的に議論する機会を設けるなど、より一層議題の充実を図ります。

グループガバナンスの強化に向けた取り組み

シチズングループでは、グループ全体の事業目標の達成と持続的な発展を確実なものとするため、リスクを集約管理し迅速に対応することのできる体制構築として、「グループリスクマネジメント委員会」を設置しました。

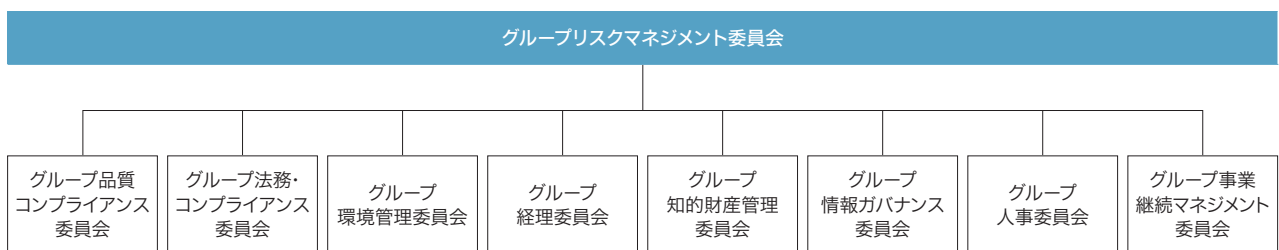
グループリスクマネジメント委員会は、グループ重要リスクの確認及び対処、新たなリスクへの対応を主要な役割としています。

同委員会は、当社の代表取締役社長を委員長としており、その傘下に主要なリスクテーマに応じた担当役員・リスク主管部門を配置した各委員会を設置し、財務的なリスクの他、コンプライアンスやBCP（事業継続計画）、知的財産、情報セキュリティ、労働慣行、環境問題等のESGリスクも含め、トップマネジメントによる重要リスクの把握と対応を行っております。本体制の構築により、グループ共通の重要リスクと各社固有のリスクのグループ間での情報共有を通じ、リスクマネジメントのノウハウをグループ各社で

共有するとともに、また、グループ全体で均一にリスクマネジメントを行うことを可能にしています。

シチズングループでは、グループ全体の品質コンプライアンスの強化策を検討・策定するため、新たに「グループ品質コンプライアンス委員会」を設置いたしました。本委員会は、グループリスクマネジメント担当取締役を委員長とし、各グループ会社の品質担当役員で構成されており、品質についてのコンプライアンスリスク対応を主要な役割としております。また、新たに策定した「シチズングループ品質行動憲章」に関する研修・教育および監査を定期的に行います。

シチズングループでは、今後も引き続きグループ全体でのリスクマネジメントの強化に向け、継続的な改善を進めていきます。



子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、関係会社管理規程等に基づき、子会社の経営体制及び内部統制システムの整備に関する管理又は指導を行っております。

シチズングループの個別の事業活動については、当社が策定した経営方針・経営計画を周知徹底し、当社グループに属する会社（以下「グループ会社」といいます。）の権限と責任を明確にした上で、グループ会社が各事業の業界特性などを踏まえた自立的な経営を行っております。

また、経営会議その他グループ会社で構成する会議又は連絡会などを開催し、当社グループにおける事業に関する重要な事項について情報の共有と連携を図っております。

さらに、子会社の事業が適正に行われているかどうかについて、事業統括経営会議、時計グループ統括会議などにおいて子会社から定期的に報告を求めるとともに、監査室の監査等によるモニタリングを行っております。

企業統治に関するその他の事項

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社では、迅速な経営判断と経営の透明性維持のために、常勤取締役、常勤監査役等で構成する経営会議を開催し、取締役会の決議事項その他経営上の重要事項について十分な議論と事前審議を行っております。

取締役会では業務執行に関する決定を行うとともに、業務執行

の監督を行っております。業務執行に関しましては、代表取締役、担当取締役及び執行役員により業務運営を行っております。

当期において、取締役会は17回開催されました。すべての取締役及びすべての監査役は、当期に開催された取締役会のうち、その任期中に開催された取締役会のすべてに出席しました。

役員一覧



取締役

1 戸倉 敏夫 取締役会長

代表取締役社長として当社グループの経営を担ってきた実績と、経営全般における豊富な経験や人脈を活かし、対外的な活動およびグループガバナンスにおける社長の業務執行を支援する。2019年より現職。

2 佐藤 敏彦 代表取締役社長

デバイス事業の運営や時計生産の統括を担った実績と経験などを踏まえ、「シチズングループ中期経営計画2021」の実行を通して当社グループの経営を牽引する。2019年より現職。

3 竹内 則夫 常務取締役、営業統括本部長

取締役として時計事業における販売戦略およびブランド戦略を推進してきた実績、時計販売を担う海外子会社の経営などの業務経験を有する。2017年より現職。

4 古川 敏之 取締役、経営企画部長、 経理部・広報IR室・情報システム部担当

経営企画部長として経営戦略を策定してきた実績、当社の取締役として経営企画部および経理部・広報IR室などの業務経験を有する。2016年より現職。

5 中島 圭一 取締役

主として工作機械事業に携わり、シチズンマシナリー(株)の代表取締役社長として工作機械事業全体を牽引し、事業戦略を推進してきた業務経験を有する。2013年より現職。

6 白井 伸司 取締役、製造技術本部長、品質保証統括部担当

子会社において時計製造に携わった後、時計製造を担う子会社の経営を担当してきた経験と、時計の製造、技術、開発などの業務経験を有する。2017年より現職。

7 大治 良高 取締役、商品開発本部長兼時計開発本部長兼 研究開発センター長

海外子会社において時計販売に携わった後、経営企画部長として時計事業における経営戦略の推進を担った経験と時計の製品開発を推進してきた業務経験を有する。2017年より現職。

8 宮本 佳明 取締役、グループリスクマネジメント、総務部長、 人事部・CSR室・環境マネジメント室担当

時計製造を担う海外子会社において新工場の立ち上げを推進した後、時計販売を担う海外子会社の経営を担当してきた経験と、当社の上席執行役員としてグループリスクマネジメント、総務部、人事部の業務経験を有する。2018年より現職。

9 寺坂 史明 社外取締役 独立

【略歴】
2004年 サッポロビール(株)執行役員九州本部長
2004年 同社取締役常務執行役員マーケティング本部長
2005年 同社取締役専務執行役員マーケティング本部長
2009年 同社専務執行役員
2010年 同社代表取締役社長
2010年 サッポロホールディングス(株)常務取締役兼グループ執行役員
2013年 サッポロビール(株)相談役
2014年 同社顧問
2015年 (株)大庄社外監査役(現職)
2017年 (株)富士通ゼネラル社外取締役(現職)
2017年 当社社外取締役(現職)

10 窪木 登志子 社外取締役 独立

【略歴】
1987年 弁護士登録
2002年 東京家庭裁判所調停委員(現職)
2009年 会計検査院・退職手当審査会委員(現職)
2012年 中央大学法科大学院客員教授(現職)
2013年 東京都中央区教育委員(現職)
2015年 クオール(株)(現クオールホールディングス(株))社外取締役(現職)
2015年 (一社)共同通信社社外監事(現職)
2016年 当社社外監査役
2019年 当社社外取締役(現職)

11 大澤 善雄 社外取締役 独立

【略歴】
2003年 住友商事(株)理事ネットワーク事業本部長
2003年 住商エレクトロニクス(株)取締役
2003年 住商情報システム(株)(現SCSK(株))取締役
2005年 住友商事(株)執行役員ネットワーク事業本部長(株)ジュビターテレコム取締役
2007年 住友商事(株)執行役員メディア事業本部長
2008年 同社常務執行役員メディア・ライフスタイル事業部門長
2008年 同社代表取締役常務執行役員
2011年 同社代表取締役専務執行役員
2013年 SCSK(株)代表取締役社長兼COO
2015年 同社代表取締役社長
2016年 同社取締役会長
2017年 同社取締役
2018年 キヤノンマーケティングジャパン(株)社外取締役(現職)
2019年 当社社外取締役(現職)

監査役

12 高田 喜雄 常勤監査役

主として会計業務に携わり、経理部門の責任者を歴任した後、当社の子会社の代表取締役社長として経営を担った業務経験を有する。2017年より現職。

13 赤塚 昇 常勤監査役、社外監査役 独立

【略歴】
1981年 (株)第一勧業銀行入行
2005年 (株)みずほコーポレート銀行(現(株)みずほ銀行)アジア営業部長
同行海外営業推進部長
2007年 同行営業第十八部長
2008年 同行執行役員
2009年 同行執行役員
2011年 東京センチュリーリース(株)常務執行役員
2016年 同社顧問
2016年 富士通リース(株)取締役会長
2018年 当社常勤監査役(現職)

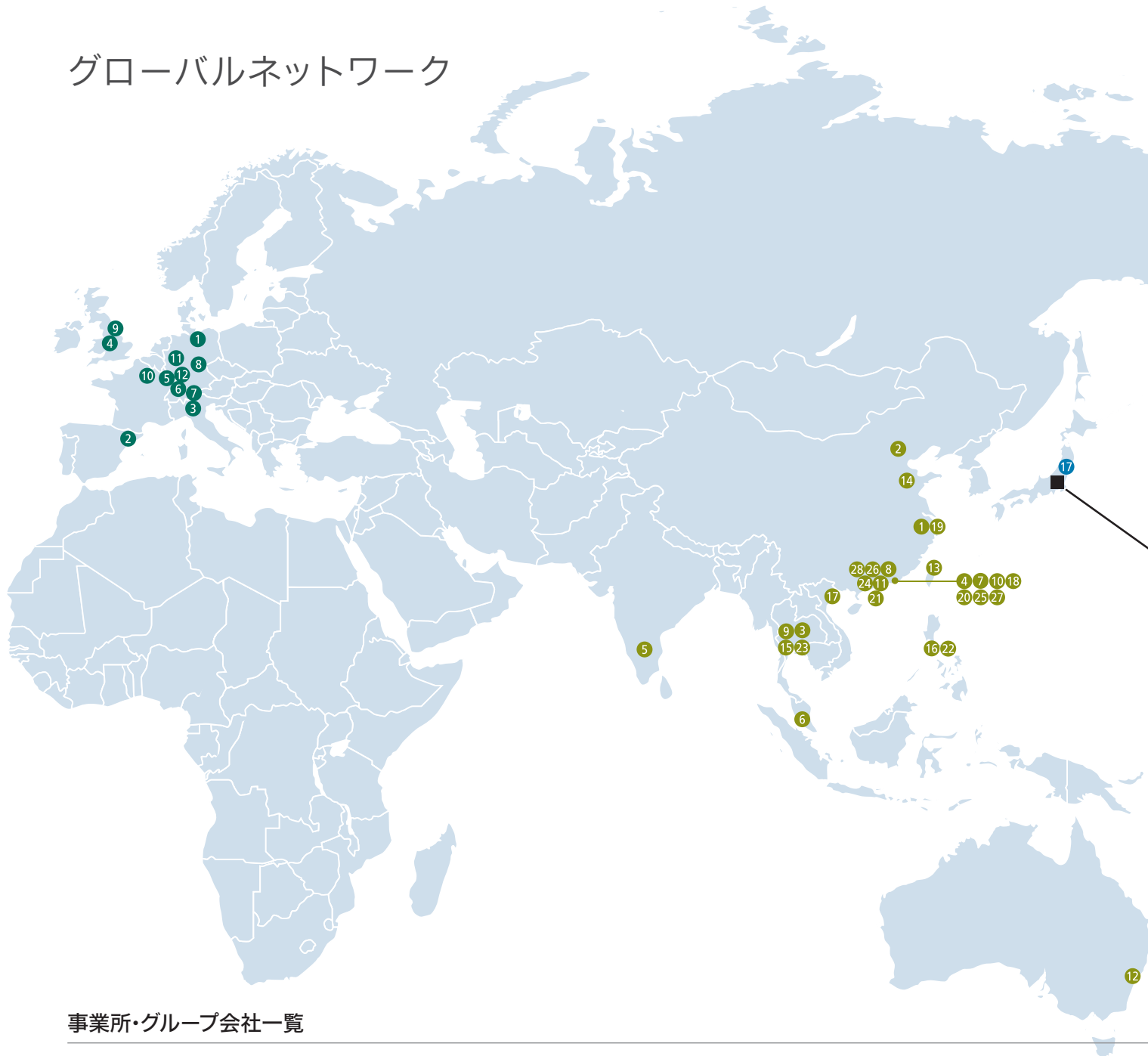
14 石田 八重子 社外監査役 独立

【略歴】
2000年 弁護士登録
2007年 東京簡易裁判所司法委員
2016年 東京家庭裁判所川支部調停委員(現職)
2019年 当社社外監査役(現職)

独立 東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員

※社外役員の選任理由については、P28をご参照ください。
※社外監査役 石田八重子氏の弁護士としての職務上の氏名は「北代八重子」です。

グローバルネットワーク



事業所・グループ会社一覧

【事業所】

- ① 本社 東京事業所
- ② 所沢事業所

【国内グループ】

- ③ シチズンマシナリー株式会社
- ④ シチズン電子株式会社
- ⑤ シチズンファインデバイス株式会社
- ⑥ シチズン・システムズ株式会社
- ⑦ シチズン時計マニュファクチャリング株式会社
- ⑧ シチズンリテイルプランニング株式会社
- ⑨ シチズンTIC株式会社
- ⑩ シチズン宝飾株式会社
- ⑪ 株式会社東京美術
- ⑫ シチズンプラザ株式会社
- ⑬ シチズンカスタマーサービス株式会社
- ⑭ シチズン物流サービス株式会社
- ⑮ シチズンマシナリーサービス株式会社
- ⑯ 株式会社ミヤノ・サービス・エンジニアリング
- ⑰ シチズン電子船引株式会社

- ⑱ シチズン電子タイムル株式会社
- ⑲ シチズンマイクロ株式会社
- ⑳ シチズン千葉精密株式会社
- ㉑ 株式会社フジミ

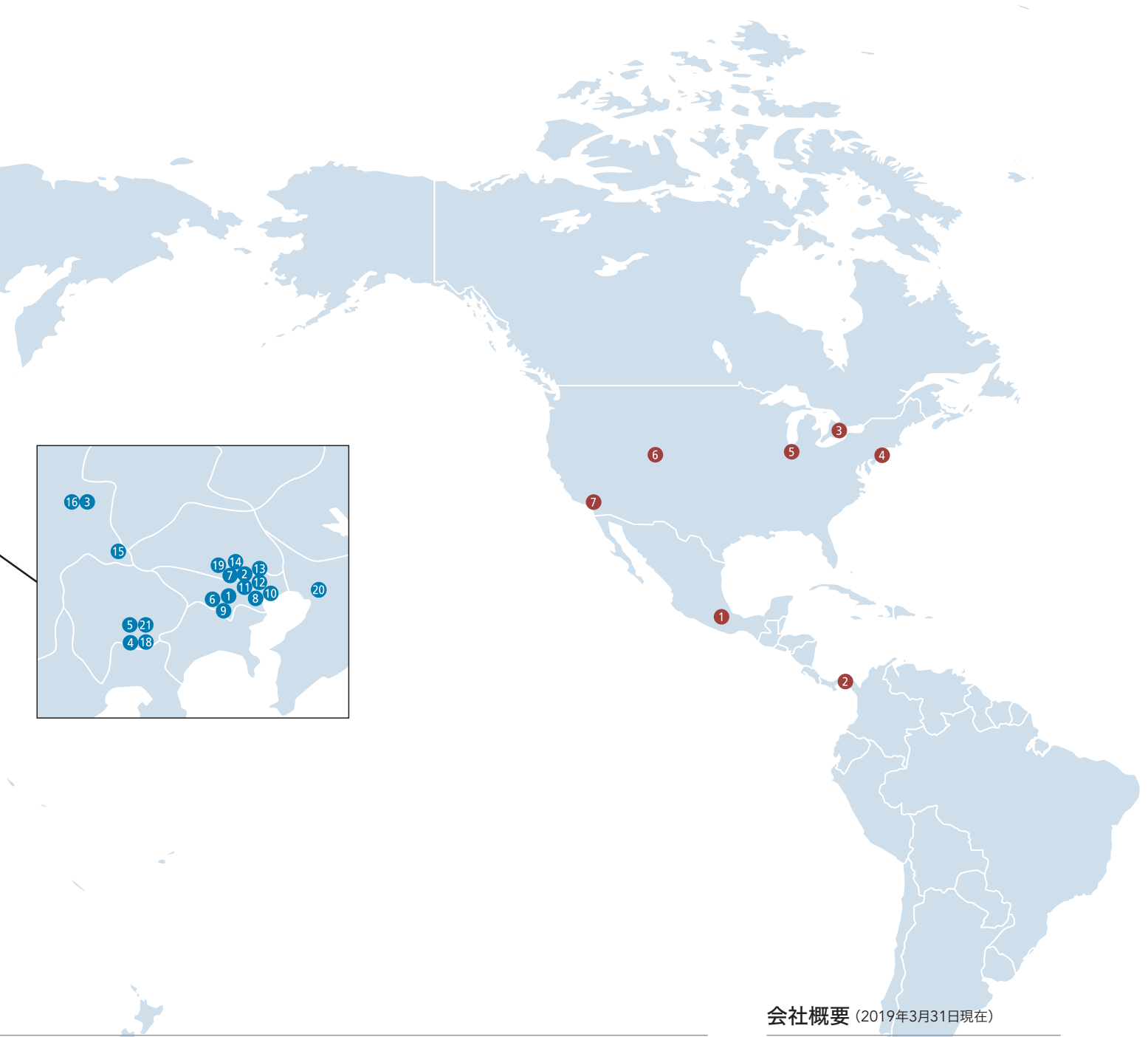
【海外グループ】

ヨーロッパ

- ① CITIZEN WATCH EUROPE G.M.B.H
- ② CITIZEN WATCH IBÉRICA S.A.U.
- ③ CITIZEN WATCH ITALY S.P.A.
- ④ CITIZEN WATCH UNITED KINGDOM, LTD.
- ⑤ FREDERIQUE CONSTANT HOLDING SA
- ⑥ MANUFACTURE LA JOUX-PERRET S.A.
- ⑦ CITIZEN MACCHINE ITALIA S.R.L.
- ⑧ CITIZEN MACHINERY EUROPE GMBH
- ⑨ CITIZEN MACHINERY UK LTD.
- ⑩ HESTIKA FRANCE S.A.S.
- ⑪ C-E (DEUTSCHLAND) GMBH.
- ⑫ CITIZEN SYSTEMS EUROPE GMBH

アジア・オセアニア

- ① CITIZEN (SHANGHAI) TRADING CO., LTD.
西鉄城(上海)貿易有限公司
- ② CITIZEN WATCH (CHINA) CO., LTD.
西鉄城(中国)鐘表有限公司
- ③ CITIZEN WATCH MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD.
- ④ CITIZEN WATCHES (H.K.) LTD.
星辰表(香港)有限公司
- ⑤ CITIZEN WATCHES (INDIA) PVT. LTD.
- ⑥ CITIZEN WATCHES (MALAYSIA) SDN. BHD.
- ⑦ CIVIS MANUFACTURING LTD.
- ⑧ GUANGZHOU MOST CROWN ELECTRONICS LTD.
広州務冠電子有限公司
- ⑨ ROYAL TIME CITI CO., LTD.
- ⑩ SUNCITI MANUFACTURERS LTD.
新星工業有限公司
- ⑪ SUNCITI PVD (JIANGMEN) LTD.
新星真空鍍膜(江門)有限公司
- ⑫ CITIZEN WATCHES AUSTRALIA PTY LTD.
- ⑬ CINCOM MIYANO TAIWAN CO., LTD.



会社概要 (2019年3月31日現在)

社名	シチズン時計株式会社
創立	1930年5月28日
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12
代表者	代表取締役社長 佐藤 敏彦
資本金	32,648百万円
従業員数	20,239名(連結)
事業内容	各種時計類およびその部分品の製造 および販売ならびに持株会社として の、グループ経営戦略の策定・推進、 グループ経営の監査、グループ技術 開発および知的財産の管理その他 経営管理など

株式概況 (2019年3月31日現在)

証券コード	7762
上場証券取引所	東証1部
会社が発行する株式の総数	959,752,000株
発行済株式数	320,353,809株
株主数	31,240名

- 14 CITIZEN (CHINA) PRECISION MACHINERY CO., LTD.
西鉄城(中国)精密机械有限公司
- 15 CITIZEN MACHINERY ASIA CO., LTD.
- 16 CITIZEN MACHINERY PHILIPPINES INC.
- 17 CITIZEN MACHINERY VIETNAM CO., LTD.
- 18 C-E (HONG KONG) LTD.
西鉄城電子(香港)有限公司
- 19 CITIZEN ELECTRONICS (CHINA) CO., LTD.
西鉄城電子貿易(上海)有限公司
- 20 FIRSTCOME ELECTRONICS LTD.
首軒電子有限公司
- 21 JIANG XING ELECTRONICS LTD.
江門市江星電子有限公司
- 22 CITIZEN FINEDEVICE PHILIPPINES CORP.
- 23 CITIZEN SEIMITSU (THAILAND) CO., LTD.
- 24 MASTER CROWN ELECTRONICS (WUZHOU) LTD.
領冠電子(梧州)有限公司
- 25 MOST CROWN INDUSTRIES LTD.
務冠美業有限公司
- 26 CITIZEN SYSTEMS (DONGGUAN) CO., LTD.
西鉄城精電科技(東莞)有限公司

- 27 CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD.
西鉄城精電科技(香港)有限公司
- 28 CITIZEN SYSTEMS (JIANGMEN) CO., LTD.
西鉄城精電科技(江門)有限公司

北米・南米

- 1 CITIZEN DE MEXICO, S. DE R. L. DE C. V.
- 2 CITIZEN LATINAMERICA CORPORATION
- 3 CITIZEN WATCH CANADA LTD.
- 4 CITIZEN WATCH COMPANY OF AMERICA, INC.
- 5 CECOL, INC.
- 6 MIYOTA DEVELOPMENT CENTER OF AMERICA INC.
- 7 CITIZEN SYSTEMS AMERICA CORP.

CITIZEN

シチズン時計株式会社

〒188-8511 東京都西東京市田無町 6-1-12
TEL. 042-466-1231 FAX. 042-466-1280

<https://www.citizen.co.jp>

「CITIZEN」はシチズン時計株式会社の登録商標です。
「エコ・ドライブ」はシチズン時計株式会社の登録商標または商標です。